

CIVIL の裏方，日本の土台を新しく，岡三リビック

岡三リビックは安原代表理事から LRRR 設立構想のお話をいただくと早々に、LRRR 設立とともに法人会員となりました。ここに至った経緯は広いようで狭い業界の中で、薄いようで濃いご縁があつてのことと感じており、安原代表理事とのご縁と岡三リビックの歴史を紹介したいと思います。

昭和 46 年に「コルゲートパイプ」の専門商社として産声を上げた「岡三興業株式会社」は、“買い戻しリース”という新しいビジネスモデルのもとで、コルゲートパイプを仮設水路として普及促進させ、同時に集水井やトンネル内巻きに適用されていた「ライナープレート」にも大いに係わり普及させました。当社の創成期において、下水道工事が盛んになり始めた昭和 51 年、推進工法の発進立坑として円形ではなく、“小判型ライナープレート”を独自に開発して当社の看板商品と育て上げました。そしてこれをバネに、日本の高度成長期とともに鉄鋼商品であるライナープレート・コルゲートパイプ関連で業界トップの座を勝ち取ることができました。

その後、昭和 58 年に鋼製補強材を用いた「多数アンカー式補強土壁」を福岡正巳先生の指導のもとで実用化することに成功し、鋼材商社に留まらず、工法メーカーとしての一面を備えた企業として拡大期を迎えます。福岡正巳先生には事業開始した後も「多数アンカー式補強土壁」の定期的に技術的助言をいただき、技術に向き合う熱い想いを学ぶことができました。そして昭和 59 年、英国において「ジオグリッド」に出会った当社は、昭和 60 年にジオグリッドの販売代理店としてジオグリッド補強土工法を新たにラインナップに加えました。これが当社のジオシンセティックスとの係わりのスタートであり、昭和 61 年から国際ジオテキスタイル学会（現 IGS）に正式加盟しました。さらに、この同じ年、当社は EPS 工法の日本への技術導入を目的とした調査団に加わり、技術の発祥地であるノルウェーを訪問して、発砲スチロール工法開発機構（EDO）の設立時から参画することとなりました。実はこのノルウェーの地には若かりし安原代表理事が留学されており、日本への EPS 工法の技術導入を後押ししていただいと伺っています。

その後も多くのジオシンセティックスを商品ラインナップに加えて、設計や施工にも応えられる全国をカバーする土木資材商社として成長することができました。そして、平成 11 年に社名を「岡三リビック株式会社」に変更して企業イメージの刷新を図りました。社名のリビック（LIVIC）という単語は、CIVIL（Civil engineering＝土木）の逆読みした造語ですが、土木業界を下から支えるという強い意思が示されたものです。さらに、LIVIC は「Leading Innovator for Value Added Infrastructure and Creativity（価値あるインフラ整備と創造性の旗手）」の頭文字を連ねたものとなっており、当社のスローガンともなっています。

2021年令和3年6月、岡三リビングは創業50年を迎えました。ここに至れたのは、お客様である施工会社、建設コンサルタントをはじめ、関係する協力会社、技術の裏付けを与えていただいた学術・研究機関の方々のお陰様と存じます。そしてこれから次の50年に向けて、LRRと共創、NEXT50 Change & Challengeを掲げて、変化への適応、新たな挑戦を続けて皆様とともに発展して参りたいと考えています。

2021年10月4日

LRR 理事 小浪 岳治

日本の土台を新しく。



岡三リビング株式会社